

科目名	公衆衛生学実習 (Practice in Public Health)			科目コード	167
開講学科	臨床検査学科	選択区分	必修	単位数 (時間)	1 単位 (45時間)
科目区分	専門基礎科目	履修時期	2 年次後期	関連DP	臨①②
担当教員	鳥居 順子、北尾 孝司、伊藤 晃、林 弘*				
授業概要	<p>健康管理上不可欠である身近な日常生活環境の衛生的要因の測定法を紹介する。測定結果をもとに公衆衛生学的背景や基準値の意味の考察を求める。(オムニバス方式)</p> <p>(鳥居教授) 日常生活環境の中で、健康管理に関わる社会的環境分野について教授する。</p> <p>(北尾教授) 日常生活環境の中で、細菌学的検査分野について教授する。</p> <p>(林非常勤講師) 日常生活環境の中で、狭義の生活環境や環境保全分野について教授する。</p>				
授業目標	<p>各種生活環境を公衆衛生学的立場から測定し、これを評価する方法論を修得する。</p> <p>測定法を説明できる。基準値の意味を説明できる。規制 (法規) を説明できる。</p>				

授業計画

回	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション	実習の進め方、事前準備 (試料採取)、測定値の処理	鳥居順子 伊藤晃
2～3	健康度測定法 (1)	栄養調査、体格 (体脂肪率)、生活活動度	
4～5	健康度測定法 (2)	フリッカー値、聴力検査、呼気中一酸化炭素濃度、肺年齢	
6～7	衛生試験の細菌学的検査	一般細菌数、大腸菌と大腸菌群 (定性)、水と牛乳	北尾孝司
8～9	食品衛生試験法 (1)	タール色素の検出 (ペーパークロマトグラフィー)	鳥居順子 伊藤晃
10～11	食品衛生試験法 (2)	牛乳の成分規格試験 (比重、乳酸酸度)	
12～13	保健衛生統計演習 公衆衛生学のまとめ	保健衛生統計指標の算出 (ROC曲線) 公衆衛生学のまとめ (学校保健ほか補足)	
14～15	河川水質調査	流量測定、外観 (色、臭気)、水温、透視度、COD、DO の固定、水生生物調査	林弘 伊藤晃
16～17	水質試験法 (1)	飲料水、河川水の理化学的検査 (外観、温度、臭気、味、色度、濁度、pH、浮遊物質、残留塩素、塩化物イオン、硬度、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素)	
18～19	水質試験法 (2)	飲料水、河川水の理化学的検査 (過マンガン酸カリウム消費量、溶存酸素)	
20～21	空気環境試験法 (1)	温熱環境 (気温、気湿、気流、感覚温度、輻射熱) 空気成分 (塵埃、一酸化炭素、二酸化炭素、有害ガス)	
22～23	空気環境試験法 (2) まとめ	物理的環境 (照度、紫外線、騒音、周波数分析、放射線)	
成績評価方法	鳥居・北尾教授担当分野 50% (レポート 45%+受講態度 5%)、林非常勤講師担当分野 50% (レポート 20%+受講態度 10%+筆記試験 20%) と配点し、総得点で評価する。		
教科書	なし		
参考図書等	鈴木圧亮「シンプル衛生公衆衛生学 2020」(南江堂) 照屋浩司・川村堅「最新臨床検査学講座 公衆衛生学」(医歯薬出版) 日本薬学会編「必携・衛生試験法 第2版」(金原出版)、日本薬学会「衛生試験法・注解 2015」(金原出版) ほか		
授業時間外の学習について	各テーマ単位でレポートを作成する。第6-7回と第8-9回で事前に試料を用意する。第2-3回でデータとして使用するため、食物摂取頻度調査に回答するとともに、1週間の食事や身体活動を記録する。		
関連科目	166 公衆衛生学、165 環境衛生学、452 食品衛生学、168 疫学 他		
備考	実 北尾：臨床検査技師 (検査機関) 一部の項目は機器等の都合で小班に分割しローテーションで実施する。 曜日の関係で順番を入れ替えることがある (初回オリエンテーション時に別途指示、掲示に注意)。		

(24カリ) 専門基礎科目